

説教要旨 「何度でも、何度でも」

ヨハネによる福音書 21章 1～14節

弟子たちがティベリアス湖（ガリラヤ湖の別名）で漁をする場面がこの箇所には描かれています。弟子たちはエルサレムにおいて復活されたイエス様と出会い、罪の赦しを告げる者として遣わされたはずでした。けれどもこの弟子たちはガリラヤに戻り、しかもそこで福音を告げ知らせるのでなく、昔の職業である漁師に戻ったかのように暮らしているのです。イエス様に派遣されたけれども、生活の糧はありません。イエス様の福音を人々に伝えても収入は得られないのですから、ペトロが「わたしは漁に行く」（3節）と言い出したのは当然のことでしょう。

漁に出た彼らはその夜何もとれなかったのですが、イエス様はそんな彼らのことを見ておられました。そして、イエス様の方から弟子たちに声をかけられます。「子たちよ、何か食べ物があるか。」（5節）一晩中漁をしていたけれども何もとれなかったのですから、「ありません。」と答えるしかない。すると、イエス様は「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」（6節）と言われ、その通りにすると、網を引き揚げるができないほどの魚がかかったのです。

ルカ福音書5章で、ペトロがイエス様の指示に従い網を打ち、船が沈みそうになるほどの魚が捕れた時、ペトロはイエス様の足下にひれ伏しこう言いました。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」（ルカ5:8）。あのときは恐れおののきひれ伏していたペトロですが、今度は違います。ペトロは湖畔に立っているのがイエス様であると気付くと、上着をまとって湖に飛び込んだのです。イエス様に出会えたペトロの喜びが伝わってきます。恐れおののくよりも先に、喜びが爆発したかのような、そんなペトロの姿が描かれています。

そして、弟子たちが陸に上がってみると、そこには朝食が用意されてあったのです。イエス様は、弟子たちに必要な糧を用意し、与えてくださるのです。弟子たちを霊に満たし、その心を喜びに満たしてくださるだけでなく、お腹をも満たしてくださるお方です。心にも体にも、必要な糧を与えてくださるのです。

（2020・1・12 説教者：稲垣真実）